

予約不要  
 入場無料



東亜同文書院 虹橋路校舎(1917~1937)

# 「東亜同文書院」と「熊本」

1901年、上海に開学した世界初の本格的ビジネススクールといえる「東亜同文書院」(のち旧制大学)は、その前史も含め、多くの各地域の人材によって支えられ、発展しました。とくに熊本県の済々黉などの出身者による功績は大きく、熊本県との強いつながりがありました。今回はその背景やその功績などから各講演者が「熊本県人」による「熊本パワー」を明らかに出来たらと思います。なお、この書院中心に外地の大学の教職員と在学学生らが中心となって、終戦直後、旧制大学として「愛知大学」が誕生しました。

## 展示会

2024年11月2日(土)~3日(日) 10:00~17:00

〈展示会場〉 10階 パレアホール

## 講演会

2024年11月3日(日) 13:20~16:30 ※受付開始12:50

〈講演会場〉 9階 会議室 1 **【先着100席】**

時刻	テーマ	講演者
13:20~13:25	センター長挨拶	加納 寛 愛知大学副学長・東亜同文書院大学記念センター長
13:30~14:15	孫文の革命運動支援における宮崎兄弟と東亜同文書院	野田 真衣 荒尾市役所 観光文化交流課・学芸員
14:20~15:10	済々黉における中国語教育と東亜同文書院	野口 宗親 元熊本大学准教授、中国文学・中国語学研究、横井小楠研究
15:20~16:20	世界最大級の踏査旅行を中国で展開した書院生たちの軌跡と近代中国像	藤田 佳久 愛知大学名誉教授、愛知大学東亜同文書院大学記念センター元センター長
16:20~16:30	質疑応答	

## 会場

### くまもと県民交流館パレア

〒860-8554

熊本県熊本市中央区手取本町8-9

テトリアくまもとビル 9階 10階

TEL:096-355-4300 FAX:096-355-4318

※ご来場の際は公共交通機関または  
 近隣の駐車場をご利用ください。



# 熊本展示会での展示物 (抜粋)

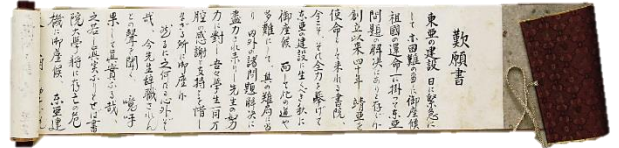
## 東亜同文書院大学関連資料



**東亜同文書院大学の学籍簿・成績簿**  
敗戦・閉校にともない、本間らの苦心によりなによりも優先して上海から教職員、学生が接収を免れ持ち帰ったもの。愛知大学教務課保管。この存在は、帰国した書院卒業生には就職・進学に大いに役立った。



**荒尾精が書き記したもの**  
『対清意見』(1894年10月、復刻版)、『対清辨妄』(1895年3月、復刻版)。  
日清戦争当時の国民世論に反し、清国へ賠償金を要求しないなど、広く対局を見て冷静に判断すべきことを訴えた。1896年(明治29年)台湾にて逝去。まだ十分活躍できる38歳であった。



### 本間喜一への復帰嘆願書

東亜同文書院を辞職して帰国しようとした本間喜一への、学生26名による復帰嘆願書。1942年5月11日。  
本間教授を信頼し、慕う学生たちの気持ちがあふれている。これより本間教授は帰院し、学長に就任した。

**大旅行**  
東亜同文書院では卒業年度になると3~5人のグループごとに中国大陸各地へ3~5か月におよぶ徒歩中心の700コースに及ぶ調査旅行が行われた。(現在の大学2、3年生)  
卒業論文となった「調査報告書」と日記体の記録からなる「大旅行誌」は当時の中国を知る貴重な資料となっている。

## 大学記念館コレクション(孫文関連資料、近衛篤磨・文磨の書など)



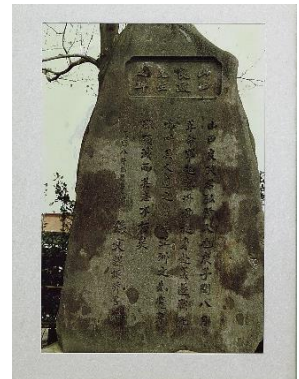
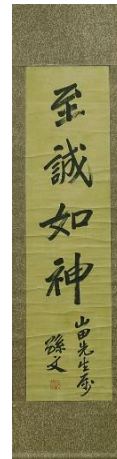
デンパー号船上のロンドンから香港へ着いた孫文と、孫文を出迎えた同志たち  
前列左からホーマー・リー、山田純三郎、胡漢民、孫文、陳少白、何天炯。後列左から6人目は宮崎滔天(大柄な姿)。  
1911年12月21日 香港。



**山田良政**  
(1867~1900年、33歳で没)

山田良政(1868~1900年)は、1899(明治32)年に東京で孫文に会い、孫文の革命活動を支援するようになった。1900年南京同文書院での教員勤務を経て、孫文が同年に呼びかけた広東省惠州で起こした惠州蜂起に参戦したが、清軍に捕えられ処刑された。

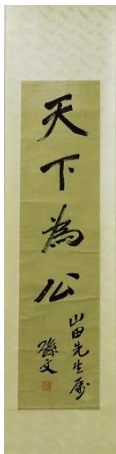
**孫文と山田純三郎兄弟**  
山田純三郎は、兄の良政亡き後、東亜同文書院教員を経て、孫文の側近秘書として活躍した。



「山田良政先生之碑」孫文書  
青森県弘前市新寺町 貞昌寺  
1919年9月29日。

**「天下爲公」孫文書**  
孫文から山田純三郎に贈ったもの。年代不明。

「天下(てんか)為(い)公(こう)」は中国の古典に登場する言葉で、「天下(てんか)公(こう)をもってす、すなわち「政治は公のためにある」という意味である。孫文はこの揮毫が気に入り、同様の書が散見される。



愛知大学記念館常設展示室  
「荒尾精、近衛家4代、根津一の書展示室」  
よりいづれかを出品。